

360度カメラを活用した森林ふれあい体験の取組 ～VR森林散策～

近畿中国森林管理局 森林整備部 技術普及課 ○近藤 弘基
八頭町 産業観光課 主任 井上 創太
(元 森林整備部 技術普及課)

1 課題を取り上げた背景

林野庁では、森林・林業の普及・啓発活動として、地方公共団体や教育機関等の地域関係者からの要請やニーズに基づき、森林環境教育やふれあいイベントに取り組んでいるところです。

一方で、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各種イベント等の開催にあたっては感染拡大防止のため、様々な制限がなされるとともに、開催そのものが自粛されるなど、森林にふれあう機会が減ってしまっています。

そこで、新しい生活様式を踏まえ、VR（バーチャル・リアリティ）技術を活用することで、自宅でも自由に森林散策を体験できるコンテンツの提供を行っています。

2 取組の経過

国有林内で森林散策等が可能な名所等を360度カメラ（全天球カメラ）で動画撮影し、編集・加工した動画を農林水産省公式YouTubeチャンネル

「maffchannel」で公開しています。

公開した動画は、ホームページ上での視聴に加え、スマートフォンとVRゴーグルを用いることで、まるで森林を散策しているような体験が可能です。



(写真1：YouTubeのサムネイル)

また、昨年度は、山の日を記念した森林ふれあいイベントにおいて、森林散策のバーチャル体験プログラムを実施しています。

3 実行結果

令和2年8月から、順次第1弾～第6弾までの動画を公開しており、YouTubeでの視聴数（令和3年8月末時点）は、合計約5,000回を数え、関心の高さを伺うことができます。

また、森林ふれあいイベントの参加者からは、「想像以上に立体的に感じられて良かった」、「ゴーグルを使うと実際に森の中にいるような感覚で楽しかった」等の感想が寄せられています。



(写真2：森林ふれあいイベントの様子)

4 考察

大手企業等がバーチャル・ツーリズムに参入するなか、森林・林業といった特有のコンテンツを配信することは需要があるものと推察します。

また、森林・林業分野では、危険な動物や昆虫、急傾斜地での移動や作業など、安全が担保されていない環境が多く見られることから、現実社会より安全であるバーチャルな世界を提供することで、今まで以上に広く森林・林業の普及・啓発が可能と考えます。

今後の課題としては、国民の皆様が強い興味や関心を持っているテーマに沿ったコンテンツの提供をしていく必要があることに加え、より多くの人々にこうした動画を配信していることを伝えるための情報発信の工夫が挙げられます。